広報にいつ

発行所　新津市役所
発行人　新津市役所総務企画課
電話 大代表 (2) 2111番
印刷所　新潟日報事業社
毎月一回発行

人口のうごき
（昭和46年11月1日現在）

人口	57,743
世帯数	13,431

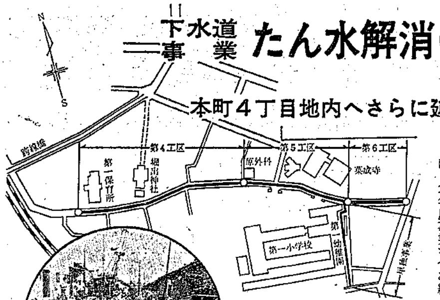
（10月中）

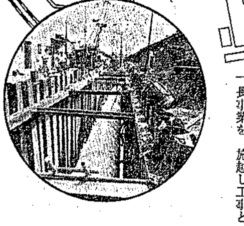
出生	78	死亡	28
婚姻	48	離婚	2
転入	189	転出	200
転居	124	世帯主変更	29

下水道事業　たん水解消に全力

本町4丁目地内へさらに延長工事

一小脇は市の単独事業で

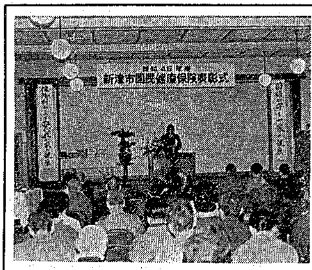




昭和四十年の下興野ポンプ場の用地買収から始まった当市の下水路事業は、本年度事業を含め総額三億四千六百万円もの巨額が投じられ、現在までにポンプ場一式と管の総延長千五百メートルにわたって工事が実施されました。このうち、本年度事業として行なわれたバスターミナル前から吉田車体工業所（本町三）前までの四百八十四メートルはこのほど終わりましたが地域住民の強い要望もあって、来年度に実施を予定していたこの延長事業を、施越し工事として勝山医院前までの三百六十七・〇七メートルを、今年度に繰り上げて明年の三月まで期間工事が行なわれることになり、今月の下旬から本格的工事が始められます。

なお、第一幼稚園脇から、かね藤食堂脇の水路までの延長百四メートルも市の単独事業として同時に実施されることになっています。

工事期間中には、沿線住民のみなさんはじめ、通勤や通学などに大変不便をかけることになりますが、この工事が完成すると毎年なん回となくたん水し、また、雨期に入ると不快感を与えていた〝水問題〟は解消されますので、水質公害のない快適な生活環境をつくるためにも理解と協力をお願いします。



第8回市ほう賞式　功労者48名4団体

国保の表彰式は健康家庭を

永年、市政の伸展、市民福祉の増進および市民の模範となる篤行をされたかたがたを表彰する第八回目の市ほう賞式が去る二十三日の勤労感謝の日に記念公会堂で大ぜいの来賓、関係者を集めて行なわれました。

今回、ほう賞を受けられた各界の功労者は、市議会議員をはじめ、市政に積極的に協力、援助された個人四十八名と四団体で、市長からは表彰状と記念品がそれぞれに贈られました。

なお、このほう賞式に先だち、去る十六日には今年度の国民健康保険表彰式（写真）も、同じく記念公会堂で行なわれました。

この表彰式は、健康で医師にかからず、保険料を率先完納された健康な世帯を毎年表彰しているもので、本年も終始健康で過ごした百九十六世帯が表彰されました。市のほう賞者、健康家庭の表彰者名は三面に掲載しています。

就業人口　前回より一〇％の増

国勢調査の結果まとまる

人口の大きさや男女別年齢別などの構成あるいは世帯数などの構成を明らかにする昭和四十五年国勢調査は、当市でも市民各位の積極的な協力のもとに昨年の十月一日現在で全市二百五十三の調査区を対象として一斉に実施されましたが、このほどその結果が統計局から公表されました。

それによると当市の総人口は五万七千八十九人で、前回（昭和四十年）の国勢調査より四百九十五人増加しました。

年齢別では十四歳以下の児童・幼児を就学・未就学にわけてみると

五歳以下（未就学年齢）　五、二八二人
六歳～十四歳（就学年齢）　八、四七一人
十五歳～二十歳　五、七四〇人
二十歳～五十九歳　三一、三七三人
六十歳～七十九歳　五、六七二人
八十歳以上　五五一人

となり、五年前と比較して未就学年齢は五人の減少でほぼ同じですが、就学年齢は二千二百六十十人（二一％）減少しました。

老齢人口の六十歳から七十九歳までは九百十七人（一九％）と、八十歳以上は百三人（二三％）のそれぞれは増加しています。

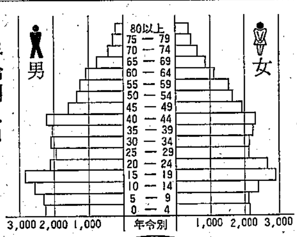
また、産業別就業人口の総数は二万八千九百八十一人で前回より一〇・三％の伸びをみせ

一次産業　六、六〇五人
二次産業　七、三八一人
三次産業一四、九九五人

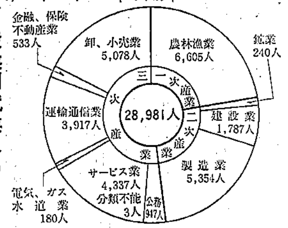
となり、世代の移り変わりによって一次産業は減少していますが、二、三次産業はそれぞれ増加していることがわかりました。

なお、当市での人口の構成をまとめてみると上の図のようになります。

■ 年齢別人口



■ 産業別就業人口



聞き上手という演技者

言葉というものは非常にむずかしい、自分の考え、意志が相手に正確に通じない場合が非常に多い。とくに世界的にも日本語は難解の部類に入るらしい。

ごく最近の例で貿易に関する交渉の席で日本代表団が……前向きの姿勢で検討したい……という言葉に対し、日本では後向きの姿勢もあるのかという疑問が提起され、正確に通訳がなされない場面があったという。これなど皮肉を含めてであろうが、この言葉はよく使われる日本語である。〝目標にむかって努力したい〟という意味に使われるのだが、さっぱり意味がわからないが「ウン、ウン」

外国ではひどく抽象的なマワリクドイ表現だという。おたがい日本人同志でも言葉の上でのスレ違いがしばしば生じるのだから、外国ではことさら多いに違いない。こうした言葉のもつ意味もさることながら、会話を通じ情報が的確に伝わらない場合が非常に多い。こっちはあれもこれもと思って気ばかりはやるが、どうも言葉のスレ違いが起こる。知り過ぎていて逆に的確に伝わらない場合が多い。話しを順序よく説明していないからであろう。

と合づちをうたざるを得ないとき、同じことを二回も聞かされる場合、しかしこうしたとき日本人はじっとがまんして聞き上手にならなければならないというアッパレな風習美徳？がある。「ウン、ウン」という感動詞と若干のポーズで、その場をつくろう演技者となればよい。個人的にはそれで通用する。市民のみなさんが行政に対し、聞き上手になられ「ウン、ウン」と合づちをうつ、行政担当者が美徳を理解せず一方的な行政を行なう。スレ違いがますますひどくなる。こうなってはたいへんである。もちろん「ウン、ウン」と合づちをうっていただける善政が最大の目標であるが、率直なご意見、ご批判を期待しているし、行政に対し聞き上手の演技者になってほしくない。〈情報化時代の恐怖は、行政が情報を独占して一方的に国民や市民に伝達し、それが変化したときに説明なしにスイッチを切りダイヤルを変えることである〉（磯村東洋大学学長）とするどく批判している。そのつど的確な情報を提供することは行政担当者として当然の責務であろう。

志田保

就学前の種痘　一月に延期

十二月十四日から来春小学校へ入学する幼児を対象に〝種痘〟を実施する予定でしたが、接種間かくの都合で一月に延期することになりましたのでお知らせします。

接点　しみん　しやくしょ

市政全般に関して、市民各位の建設的なご意見ご批判をいつでもおよせください。

ポリ系のゴミを燃やすと高い温度を出して焼却炉を痛めているということを聞きますが市では依然としてゴミ収集にポリ袋を奨励しているのは、いったいどうしたことなのですか。

一市民

××××× 投書にお答え ×××××

安くて便利で丈夫かつ衛生的なものとして登場したポリ系の諸材料は、消費経済の波に乗って使い捨てにされる世の中ですが、これがいったんゴミとなると最も大きな欠点になります。――腐らないし、だから埋め立ててもだめ。燃えにくいし無理に燃やせば高い熱を出す。安いから大量に出回る。ゴミとして処理するには、非常に迷惑なものです。

しかし、これだけ一般に普及し、重宝がられているポリ系のものが、一般のゴミの中にまじることはやむを得ないものですから、今後の処理施設をつくるときには、これに耐え得るものをつくらなければならないものと思います。

ところで市がゴミ袋としてポリ袋を勧めているのは次の理由からです。

▼ゴミは必ず容器に入れてもらわないと収集自動車の上から飛び散る結果になります。

▼ゴミを入れて出してもらう容器は標準化されないと、取り扱いも不便で収集能率があがりません。

▼ポリ袋は、丈夫で安くて衛生的ですから勧めやすいのです。

▼現在一枚二円五十銭であっせんしていますが、これを紙袋などで丈夫なものとなると約五倍から十倍くらいの価格になります。

▼現在ゴミ袋として使用され、毎日のゴミを入れて出される量は四千枚から五千枚くらいと推定していますが、これは毎日収集されるゴミの量の中では〇・一％～〇・二％くらいにしか当たりません。

▼一般のゴミの中にまじるポリ系のものの量が一〇％を超えますと焼却炉に影響があると考えられていますのでやむを得ない措置と考えています。

環境衛生課

市で女子調理員を募集

申し込みは十二月十一日まで

市では、給食作業に従事する女子調理員三名を次の要領で募集します。

▼受験資格　昭和四十七年一月一日現在で満三十五歳以下の者。

▼試験日　十二月十九日

▼試験会場　市役所

▼受験の申し込み　十二月一日から十一日正午まで。

▼受験の手続き　受験を希望されるかたは、市役所総務企画課で申し込み用紙を用意してありますので、必要事項を記入のうえ期限内にお申し込みください。